

2025年度(2026年3月期)

第3四半期決算関連資料

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

2026年2月6日

# 目次

2025年度 第3四半期(累計)決算

(再掲)2025年度 計画

ビジネスピックアップ

2025年度 第3四半期(累計)業績

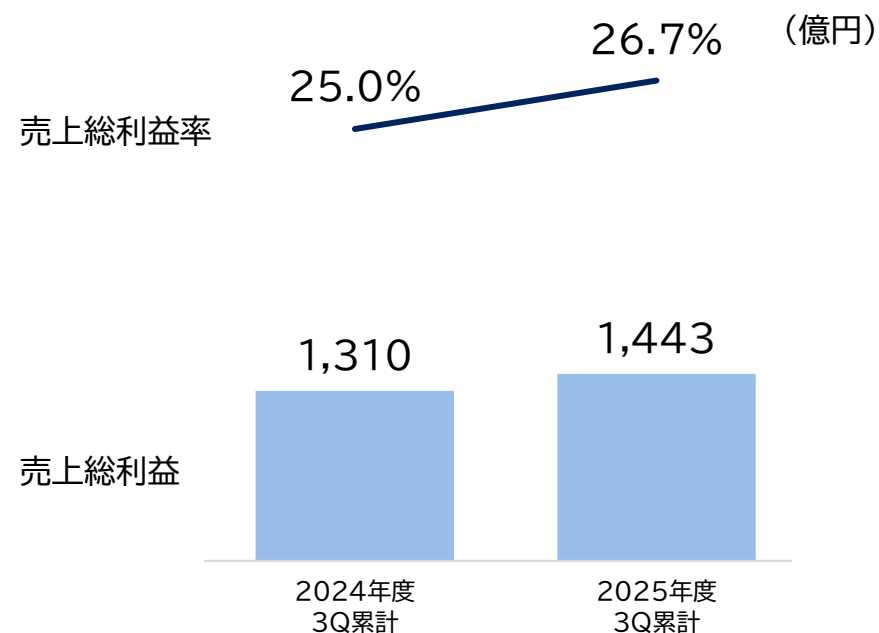
- 売上収益及び全ての利益項目が第3四半期累計として過去最高を更新。売上総利益率が+1.7pの26.7%となったほか、営業利益率も着実な伸長をみせた
- 受注高は前年同期比+6.3%、受注残高は+11.7%と引き続き堅調に推移した

		(億円)			
		2024年度 3Q累計	2025年度 3Q累計	増減額	増減率
売上収益		5,243	5,408	+ 165	+ 3.2%
売上総利益		1,310	1,443	+ 132	+ 10.1%
(売上総利益率)		(25.0%)	(26.7%)	(+1.7p)	-
その他の収益及び費用		▲836	▲937	△ 101	+ 12.0%
営業利益		474	506	+ 32	+ 6.7%
(営業利益率)		(9.0%)	(9.4%)	(+0.4p)	-
当社株主に帰属する 当四半期純利益		335	361	+ 26	+ 7.8%
受注高		5,250	5,579	+ 329	+ 6.3%
受注残高		4,441	4,961	+ 520	+ 11.7%

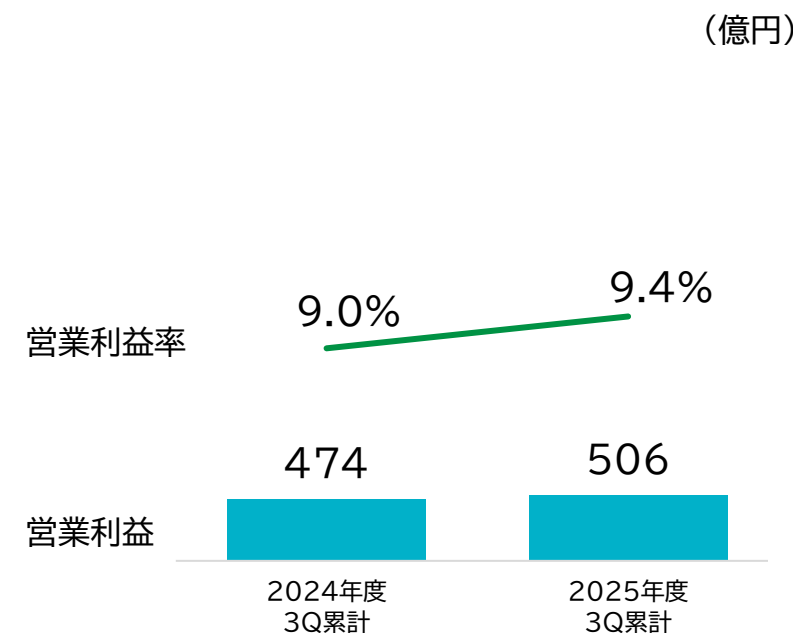
## 2025年度 第3四半期(累計)業績

- 顧客の経営戦略上重要なセキュリティ対策強化やクラウド化など、当社が注力する領域におけるIT投資が旺盛に推移したことを背景に、売上収益が拡大した
- 売上総利益及び売上総利益率は、付加価値の高い開発や、セキュリティ、AI領域のビジネスが寄与することで伸長、あわせて営業利益率も伸長した

当社グループの売上総利益、売上総利益率推移

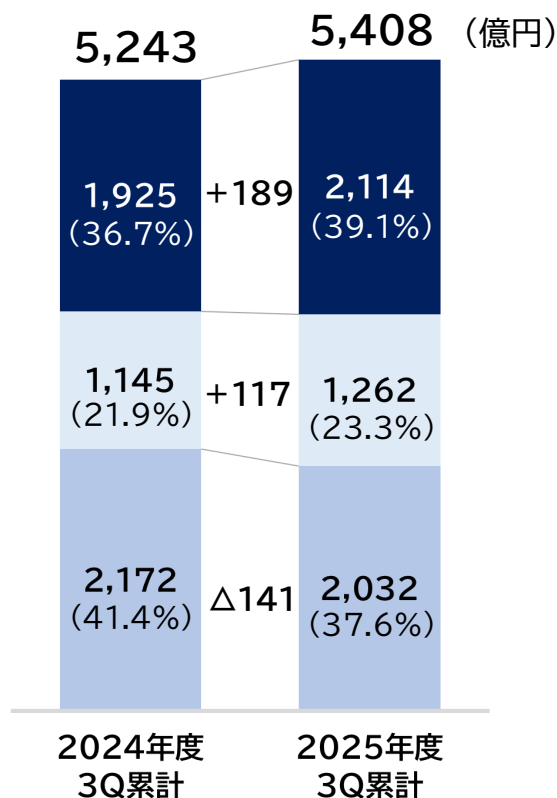


当社グループの営業利益、営業利益率推移



## ビジネスモデル別売上収益

- 売上収益はクラウドや保守運用のサービス、アプリケーション開発・インフラ構築などの開発ビジネスが引き続き伸長した
- 製品販売や開発では、様々な業種向けのセキュリティ強化支援が好調。サービスでは、当社が提供するクラウドのワンストップ型サービスなどが増加



## 主な取り組み事例

- ✓ 電力、公共向けなどに当社マネージドサービスやパブリッククラウドを提供
- ✓ 政府系金融機関向けに構築した社内OAインフラ基盤の運用を支援し安定稼働に貢献
- ✓ 消費財メーカーのブランディング向上を目的とするシステム基盤において運用を支援
- ✓ 政府が推進する地方自治体のセキュリティ強化方針に向けて、自治体向け情報基盤システムを更改
- ✓ 通信事業者向けの業務系システム開発
- ✓ 電力向け発電量予測やエネルギー関連施設向け耐震解析などのシミュレーションを提供
- ✓ 増大する脅威に対応するため製造業、建設向けにセキュリティ対策ソフトウェアを販売
- ✓ 社会インフラを支える通信事業者のネットワーク設備更改を支援
- ✓ メガバンク向けデータ分析、運輸、製造業向けデータ可視化の基盤導入

## (参考) 事業グループ別売上収益

(億円)

## 主な変動要因

	2024年度 3Q累計		2025年度 3Q累計
	5,243		5,408
	1,051	+164	1,215
	572	△26	547
	1,618	△104	1,514
	690	+98	788
	497	+53	550
	813	△20	793

エンタープライズ	(+) 消費財メーカー向けシステム基盤の運用支援 (+) 電力向け発電量予測やエネルギー関連施設向け耐震解析などのシミュレーションを提供 (+) 製造業、建設向けセキュリティソフトウェアの販売 (+) 運輸、製造業向けにデータ分析のソフトウェアを販売 (+) 製造業向けネットワークの高度化のためのソフトウェア販売
リテール&サービス	(-) 前年同期のエネルギー業界向け店舗管理システムの導入の反動
情報通信	(+) 通信事業者向け業務系システム開発、ネットワーク設備の更改 (+) 情報サービス事業者との共創による法人向けインフラの導入 (-) 前年同期のインターネット関連事業者向けの大型の生成AI基盤構築の反動
広域・社会インフラ	(+) 電力、公共向けクラウドサービス提供 (+) 地方自治体向け情報基盤システムの更改 (+) 社会インフラ向け顧客管理システム基盤の構築 (+) 半導体製造向けインフラの構築や導入
金融	(+) 政府系金融機関向けの社内OAインフラ基盤の運用支援 (+) メガバンク向けの業務システムのデータ分析基盤の導入や仮想化支援 (+) ネット系銀行向け社内システム更改
その他	(+) 海外事業会社(マレーシア)における地場銀行向けIT基盤整備 (-) 前年同期の海外事業会社(アメリカ)におけるデータセンター向けサーバ導入の反動

(再掲) 2025年度 計画

	(億円)			
	2024年度 実績	2025年度 計画	前年比	増減率
売上収益	7,282	8,250	+ 968	+ 13.3%
売上総利益	1,877	2,140	+ 263	+ 14.0%
(売上総利益率)	(25.8%)	(25.9%)	(+0.1p)	-
その他の収益及び費用	▲1,202	▲1,365	△ 163	+ 13.6%
営業利益	676	775	+ 99	+ 14.7%
(営業利益率)	(9.3%)	(9.4%)	(+0.1p)	-
当社株主に帰属する 当期純利益	503	550	+ 47	+ 9.3%
受注高	7,638	8,700	+ 1,062	+ 13.9%
受注残高	4,790	5,240	+ 450	+ 9.4%

主な注力トピック

注力4領域

- ✓ クラウドネイティブ、セキュリティ、データ&アナリティクス、高度AIの注力領域において、技術力強化によりさらなるビジネス拡大
- ✓ AIエージェント構築サービスなど、AI関連ビジネスのポートフォリオ拡充

ケイパビリティ向上

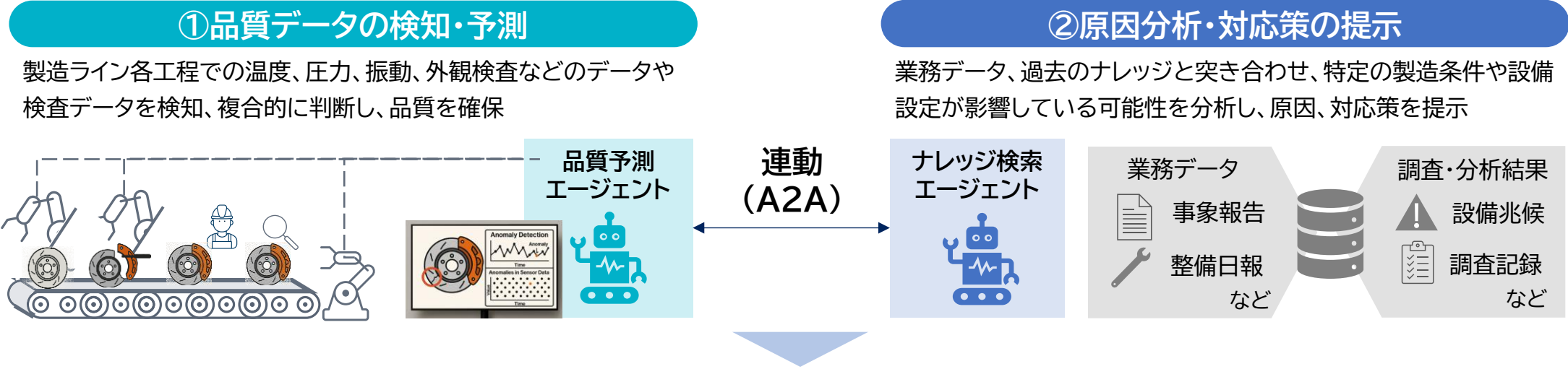
- ✓ 伊藤忠デジタル事業群との連携によりコンサルティング機能強化
- ✓ 開発へのAI活用による品質向上及び業務効率化
- ✓ 自社独自サービスの展開を加速し、ビジネス拡大

トヨタ車体とAIを活用した製造DXに挑戦 - 人の経験に依存していた判断をデジタルで支える新たな仕組み -

- 製造現場における熟練技能者の技能継承や品質確保の属人化に対応するため、AIを活用した新たな仕組みの構築を目指し、トヨタ車体と共同研究を開始
- 熟練技能者のノウハウを、マルチモーダル※1 対応のAIエージェントに組み込み、A2A方式※2で高度な品質予測、原因分析の実現を目指す

※1 マルチモーダル:画像、動画、センサー数値、記録文書など多様なデータを組み合わせて処理する技術  
※2 A2A:Agent to Agentの略。異なるAIエージェント同士が互いに情報をやり取りしながら連動する仕組みで、単一利用より精度が向上

共同研究のイメージ



本研究で得た知見を応用し、自動車産業のみならず、機密機器、電機、素材など、他のものづくり産業の課題解決へ

- サイバーセキュリティ・リサーチ・センターを設立し、お客様のセキュリティ水準向上に貢献
- 量・質ともに悪化の一途をたどるサイバー攻撃による被害を減らすべく、サイバーセキュリティ・リサーチ・センターを2025年11月に設立
  - CTCが長年培ってきたセキュリティ運用や技術の知見を活かし、国内外の最新セキュリティ動向を迅速に収集・解析し、レポートを通じてお客様のセキュリティリスクの軽減に貢献する

## サイバーセキュリティ・リサーチ・センター

### 概要・目的

- サイバー攻撃に関する脅威動向や最新の対策技術を調査・分析し、レポートで対策を発信
- お客様のセキュリティリスク軽減を図る



情報を  
活かす



企業を  
守る

### 調査・分析レポートは公式サイトで公開

- AI時代の脅威や、CTC-SOC※における最新の攻撃観測情報などのレポートを公開
- 2026年2月現在、7名のリサーチメンバーが在籍し、9本のレポートを掲載中

※CTC-SOC:セキュリティアナリストがお客様のセキュリティ機器を24時間365日監視する、CTCのセキュリティサービス



<https://www.ctc-g.co.jp/keys/security/csrf>



吉井 稔勝  
サイバーセキュリティ・  
リサーチ・センター長

# 世界をGOODに

**CTC**

Challenging Tomorrow's Changes